

「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。紙版次号向けには
2月末までに情報をお寄せください。

掲載料は無料です。

3 MAR 館長講座 第8回
「縄文の思考・弥生の思考と現代」

3月 2日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込

講 師 阿子島香氏 (東北歴史博物館館長)

場 所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 290名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

特別展「なつかし仙台5～いつか見た街・人・暮らし～」関連講座
「写真が歴史資料となるまで」

3月 2日(土)
13:30▶15:00
有料 要申込

場 所 仙台市歴史民俗資料館

主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956

第10回 知りたいみやぎ復興の知恵
【震災伝承】

3月 3日(日)
13:30▶14:30
無料 申込不要

講 師 小野寺寛氏 (歌津地区復興支援の会一燈代表)

場 所 みやぎ東日本大震災津波伝承館・多目的スペース

主催者 宮城県復興・危機管理部復興支庁・伝承課、東北大学災害科学国際研究所 問合せ TEL 022-752-2140

れきはく講座 第5回
「東北先史社会の交流・物流」

3月 9日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込

講 師 小野章太郎氏 (東北歴史博物館企画部)

場 所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 280名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

大人の科学教室 第4回
「プログラミングでドローンを飛ばす」

3月10日(日)
10:00▶12:00
無料 要申込

場 所 スリーエム仙台市科学館 2階特別展示室 定員 12名 (中学生以上)

主催者 スリーエム仙台市科学館 問合せ TEL 022-276-2201

特別企画展関連講座「狩猟を探る」第3回
「狩猟採集を実践するーカナダ・ユーコン準州と日本の事例から」(ハイブリッド)

3月10日(日)
13:30▶15:00
無料 要申込 ※要入館料

講 師 山口末花子氏 (北海道文学学術研究院准教授)

場 所 地底の森ミュージアム研修室 定員 40名+Zoom80名

主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153

仙台大学川平キャンパス 公開講座
「百歳まで歩く!～転ばぬ先の筋肉運動～」

3月16日(土)
9:00▶10:30
無料 要申込

講 師 笠原岳人氏 (仙台大学教授)

場 所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名

主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

仙台大学川平キャンパス 公開講座
「耳より健康情報～最近の話題を中心に～」

3月16日(土)
10:40▶12:10
無料 要申込

講 師 小松正子氏 (仙台大学教授)

場 所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名

主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

れきはく講座 第6回
「『我田引水』―幻の農民文学―」

3月16日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込

講 師 今井雅之氏 (東北歴史博物館企画部)

場 所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 280名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

仙台大学川平キャンパス 公開講座
「みんなのスポーツ～ニュースポーツ・ユニバーサルスポーツについて～」

3月23日(土)
10:40▶12:10
無料 要申込

講 師 仲野隆士氏 (仙台大学教授)

場 所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名

主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

第64回 名著への旅

『紙つなげ!彼らが本の紙を造っている:再生・日本製紙石巻工場』

佐々 涼子 著
ハヤカワ・ノンフィクション文庫
(2017年2月15日 初版発行)

2011年3月11日、津波による壊滅的な被害を受けた日本製紙石巻工場。本著は、自らも被災し、工場閉鎖の不安を抱えながら、日本の出版文化を支えた人々の、復興への日々を真摯に聞き取った不朽のノンフィクションである。

石巻工場には、特別、本好きでなくとも耳にしたことがあるだろう書籍の用紙や文庫用紙、コミック用紙を生み出す<8号機>という抄紙機がある。地元宮城県に暮らしながら、自分が日々手にする書籍の紙が石巻で作られていることを知らないで生きてきたことに恥ずかしさを覚えている。

「8号機が止まる時は、この国の出版が倒れる時です」自らも被災し、家族や家を失った社員もいるなか、わずか半年という短期間で、社員一丸となって<8号機>を復活させる。

あの震災によって、我々は地方の現実を突きつけられた。多くの決断が本社のある中央(東京等)で決定され、それを無理にでも担うのはいつも地方の役割であることのやるせなさ。それでも、仕事への誇りと地元石巻への熱い想いが皆をかきたてたのだろうか。

「この本は過去の出来事の記録としてだけでなく、今後起こりうる自然災害に向けての未来の書として読んでほしい」と著者の佐々さんは語る。

ある特別な会社組織の奇跡的な復興談としてではなく、自分の属している会社組織だったらどう対処できるかを振り返り、組織内における「リーダーシップ」を見直すためにも必須の一冊になるだろう。(庄)

参加体験記募集中!

読者の皆様に参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。掲載採用させていただいた方うち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈!ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント!

※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web 版投稿フォームよりお送りください。

第62号 まなびのめクイズの正解発表!!
「まなびのめ」第62号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 天童先生が、その構築に今もっとも力を入れているという学問分野は? 答え「災害女性学」

Q.2 その人の生活に最も密接に関連している国の国語を付与しようというのは何主義? 答え「連関主義」

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から抽選で3名様に図書カードが当たりますので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

応募先 / 問い合わせ先

FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
(FAXは24時間受付 電話受付時間10:00~16:00 土・日・祝日除く)

manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第63号/発行日2024年1月5日
企画・編集 「まなびのめ」編集部/発行 笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部 川又進 菅野麻実 庄司真希
オブザーバー: 笹氣義幸 寺田征也 (明星大学) 協力: 株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本

© 笹氣出版印刷株式会社 無断で複写、複製、転載することを禁じます。
この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC® 認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。



ご自由にお持ち帰りください。

TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付
クイズあります
詳しくは中面へ

学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 第63号
2024. 1

学びの庭におじゃまします シリーズ「東日本大震災」[13] ー海辺ー

住民と生態学者が共に考えた復興

東北学院大学 地域総合学部 教授
(景観生態学・持続を可能にする教育)

平吹 喜彦 先生

市民と生態学者が共に調べた成果

東北大学大学院 生命科学研究所 教授
(生態学・陸生物学)

占部 城太郎 先生

● これからの主な「学び」イベント 39件 掲載!

● 「学び」イベント に行ってきました

● 名著への旅 『紙つなげ!彼らが本の紙を造っている:再生・日本製紙石巻工場』(佐々涼子)

● Voice Park

Web版 随時更新中! まなびのめ
http://manabinome.com/

発行 / 笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

詳細は Web 版に掲載しています。http://manabinome.com/event

ここに掲載する情報は、主催者である各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

新型コロナウイルス等の感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等で確認をお願いいたします。

定期開催 トワイライトサロン
「土佐誠の宇宙が身近になる話」 毎週土曜日
17:00▶17:45
無料 申込不要

講 師 土佐誠氏 (仙台市天文台名誉台長)

場 所 仙台市天文台オープンスペース

主催者 仙台市天文台 問合せ TEL 022-391-1300

展示 企画展「こころへんのごはん～お茶飲み話で聞いた沿岸部のレシピ」 ～2月12日(月)
10:00▶17:00
無料 申込不要

休館日/毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日(土・日曜日、祝日を除く)

場 所 せんだい3.11メモリアル交流館・2階展示室

主催者 せんだい3.11メモリアル交流館 問合せ TEL 022-390-9022

特別展「なつかし仙台5～いつか見た街・人・暮らし～」 ～4月14日(日)
9:00▶16:45
有料 申込不要

休館日/毎週月曜日、第4木曜日、休日の翌日/入館は16:15まで

場 所 仙台市歴史民俗資料館

主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956

第105回特別企画展
「旧石器×ハンター!!」 1月16日(火)～3月10日(日)
9:00▶16:45
有料 申込不要

休館日/毎週月曜日(2/12を除く)、第4木曜日、2/13(火)/入館は16:15まで

場 所 地底の森ミュージアム企画展示室

主催者 地底の森ミュージアム 問合せ TEL 022-246-9153

企画展「仙台文学館の語り部たち～資料でたどる文学の記憶」 1月20日(土)～3月17日(日)
9:00▶17:00
有料 申込不要

休館日/毎週月曜日(2/12を除く)、第4木曜日、2/13(火)/入室は16:30まで

場 所 仙台文学館企画展示室

主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

1 JAN 講座仙台学 2024
「仙台藩四代大名綱村は、偉人か奇人か」 1月20日(土)
10:30▶12:00
無料 要申込

講 師 モリス・J.F.氏 (宮城学院女子大学名誉教授)

場 所 仙台市民活動サポートセンター6階セミナーホール 定員 50名

主催者 学都仙台コンソーシアム・宮城学院女子大学 問合せ TEL 022-279-4703

講座仙台学 2024
「仙台藩の参勤交代～教科書には載っていない参勤交代の真実～」 1月20日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込

講 師 渡邊洋一氏 (東北文化学園大学地域連携センター特任教授)

場 所 仙台市民活動サポートセンター6階セミナーホール 定員 50名

主催者 学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学 問合せ TEL 022-233-3451

仙台大学川平キャンパス 公開講座
「スポーツコーチング論」 1月27日(土)
10:40▶12:10
無料 要申込

講 師 森本吉謙氏 (仙台大学教授)

場 所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名

主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

民俗講座 第1回
「7歳の登拝ー羽田のお山がけー」 1月28日(日)
13:30▶15:00
無料 要申込

講 師 小林直輝氏 (東北歴史博物館学芸部)

場 所 東北歴史博物館 1階研修室 定員 40名

主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

住民と生態学者が共に考えた復興

中国で震災を知り急いで帰国

故郷の山形では子どもの時、ずっと野外で遊んでいました。生物担当の高校教師だった父の影響もあって虫や草花の採集も大好きで、高校では生物部に入ります。大学と大学院では森林などの調査に没頭し、そのまま研究者になりました。

生物と環境の関係を総合的にとらえる「生態系」という言葉はよく知られています。その仕組みを研究する「生態学」も聞いたことがあるでしょう。しかしその一分野で、私の専門である「景観生態学」には、あまりなじみがないかもしれません。

景観は風景とほぼ同じ意味ですが、景観生態学ではそれが形成された過程や、人や社会にとってどのように機能しているかを深く多角的に調べます。そして、その結果に基づいて土地の利活用を考え、暮らしや産業に役立てようとするのです。もちろん開発計画を中止したり変更したりすることもあり得ます。

景観生態学では現地調査が欠かせないため、私も国内外で各地を回ってきました。とはいえ沿岸部や海岸林への関心が特に強かったわけではなく、むしろやや標高の高い丘陵地などを主に研究していたのです。その一環として、東日本大震災が発生した2011年3月11日、私は中国にいました。

仙台をたったのは数日前です。雲南省の省都である昆明（クンミン）で中国側の研究者に迎えられ、日本側メンバーと合流して、そこからさらに山あいの集落に入って調査する計画でし

た。ところが昆明にいた3月9日、宮城県で震度5を観測する地震が起きたことを知ります。あわてて仙台の自宅に電話しましたが、「心配しなくてよい」とのことでした。

それならばと奥地に入ったのですが、11日、調査を終えて間借りしていた農家に戻ると「日本が大変だ」と告げられました。その家のテレビは、数日前に利用したばかりの仙台空港に津波が押し寄せる画像を映し出しています。呆然としながら、一刻も早い帰国を決め、準備を進めました。

翌日に昆明へ戻り、日本側メンバー一同、その次の日に関西国際空港に飛ぶことができました。機内で配られた新聞の一面記事は、東京電力福島第一原発の炉心熔融です。「日本は大混乱だろう」と覚悟しましたが、表向き、大阪の街は意外にも平穏でした。新幹線と在来線でその日のうちに、調査メンバーが居住する千葉に到着します。幸いその先生の車にはガソリンが十分入っていたため、一般道を北上していただき、14日の午後後に仙台に戻ることができました。

驚異的だった生態系の自律的な再生

しばらくはショックで、沿岸部に行ってみようとはまったく思えませんでした。宮城県や仙台市の自然環境保全に関する委員をしていたので、基礎調査で訪れた経験はあります。しかし沿岸は自分の主な研究対象ではなかったため、土地勘があるのは、仙台湾岸のうち七北田川河口から名取川河口にかけての地域だけでした。津波災害の研究歴をお持ちの同僚の誘いでその地を訪れたのは、1カ月以上が経ってからです。状況はテレビや新聞で見ていた以上にすさまじく、農地も集落も松林も、がれきと泥で埋め尽くされ、消失した砂浜もありました。

5月になり、研究者として生き物や生態系の調査をしないわけにはいかない、と思うようになりました。がれきの片付けで大型車両が行き交う中、邪魔にならないよう早朝に出かけるなど工夫したつもりです。しかし復興にも有益な調査であると確信していても、工事の方々や避難所で暮らす方々には「人間よりも植物か」と思われて当然で、本当に心苦しい日々でした。

一方で大きな喜びも感じました。泥や砂の中に緑を見つけたからです。たしかにマツなど高木の多くは、折れたり、倒れたり、根こそぎ流されたりしていました。しかし低木や草はあちこちで生きていて、次々に芽吹き、開花したのです。昆虫もいて、驚異的な生態系の再生力に圧倒されました。

全国の研究者仲間からは「行って調査に加わりたいが、現地

でどう思われるだろう」という問い合わせがずっとありました。夏以降はためらわずに、「被災の実態を五感で感じ取れる今のうちに来てほしい」と答えました。それに復旧工事が本格的に始まってしまうと、現地には入れなくなると思ったのです。

防潮堤や海岸林、農地の大規模復旧工事は各所で次々に始まり、ものすごい速さで進みました。「スピード感のある復興」というスローガンのもと、がれきを撤去した海辺の多くは整地され、工事用道路が通り、資材置き場が設けられ、大量の土石とコンクリートが運び込まれました。かろうじて生き残ったり、戻り始めた小さな生き物たちは、ひとたまりもありません。

国や県や市が工事を急いだのは、一刻も早く平穏な日常を取り戻すためだったことは明白ですが、予算の執行期限という制約もあったのでしょう。「創造的な復興」や「未来志向の復興」という旗印の下、ふるさとの生き物や自然環境の保全・利活用徐徐に目が向けられたとはいえ、残念な出来事が少なくありませんでした。車座になっての話し合いやちょっとした工夫が、もっとあってもよかったと思います。

市民と研究者の協働で「次」に備える

仙台平野を縁取る砂浜海岸では、防潮堤の建造に続いて、その内陸側に、海岸「防災」林をやはり途切れなく、またもっと広い幅で造成する基盤盛り土工事が行われました。植樹に先立ち、丘陵地から大量の土石が運び込まれ、平坦に成形された立地が画一的に造成され続けたことは、今でも残念でなりません。強く締め固められた粘土質の盛り土は、水はけが悪く、海辺に適したクロマツでさえ育ちににくく、また回復しつつあった自然を覆い尽くさんばかりの広がりでした。そして、外来植物やクズの爆発的な繁茂を促したのです。

もちろん復旧工事を担当する行政部局が、私たちの調査報告や提案を尊重してくれた事例も少なくありません。仙台市の新浜（しんはま）地区は、それらが集積する貴重な海辺のひとつで、さまざまな自然環境保全対策の検証を含めて、生態系の変化が継続して調査されています。さらにここでは、住民主体の復興まちづくり活動との強い結びつきも醸成されてきました。

調査中のある日、私は新浜町内会の方から声をかけられます。海辺で何をしているのか、なぜここだけ防潮堤工事が始まらないのか、と言うのです。緊張しながら調査の意義を懸命に説明すると、意外にも幼少の頃から接してきた動植物のことや、海岸林の思い出を語ってくださいました。

懸賞

図書カードを
当てよう！

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 平吹喜彦先生が専門にしている生態学の中の一分野は何学？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。占部城太郎先生の記事もご覧ください。

応募
方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び【応募締切】2024年3月11日 当日消印有効
発送に限り利用させていただきます。



こうして地元の方々との交流が始まりました。その中で私たちは、お伝えした専門的な調査結果以上の、貴重な情報をいただくことができたのです。400年以上にわたって持続してきた新浜で、海辺ならではの生物資源や災害リスクにかかわる伝統知の再認識や先祖の苦勞への感謝、地域に対する誇りなど、心のうちの深い言葉に触れることができたのです。

震災後はどうしても、スケジュールありき、予算ありきの「上からの復興」になりがちでした。しかし新浜では早くから町内会を中心に復興まちづくりが議論され、2013年には住民が主体となって基本計画を策定しています。急ぎ過ぎず、その土地の自然と歴史を活かした新浜の復興のあり方は、「次」の災害に備える事前復興の取り組みに、大いに参考になるはずです。

歴史学が専門の同僚など幅広い研究者や新浜の皆さんが調査・実践に加わってくれるようになって、取り組みはさらに活発になりました。2015年には、成果や提案を広く市民の方々に知っていただくプロジェクトが立ち上がります。現地や本学で学習会を開催したり、本学や仙台市若林図書館でパネル展示を行って、その内容を冊子や書籍などにまとめてきました。

私たち研究者は説明の際、つい専門用語を多用しがちです。その言葉をめぐる研究の蓄積があり、正確を期すためですので、どうかご理解ください。よければ私たちの「南蒲生/砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク」のホームページをご覧ください、「里浜」「エコトーン」「生態系レジリエンス」といったキーワードを、震災や復興に関する知識に加えていただければ幸いです。市民の皆さんが、沿岸被災地での暮らしや生態系に関心を持ち続けてくださることを、心から願っております。

(取材=2023年11月20日/東北学院大学五橋キャンパス
シュネーダー記念館9階 環境試料分析室にて)



東北学院大学 地域総合学部 教授
専門=景観生態学・持続を可能にする教育

平吹 喜彦先生

〈プロフィール〉(ひらぶき・よしひこ) 1957年山形県生まれ。東北大学大学院理学研究科 修士課程退学。理学博士(東北大学)。宮城教育大学教育学部 教授などを経て、2005年より現職。共編著書に『大津波と里浜の自然誌』、『自然と歴史を活かした震災復興』、共著書に『生態学が語る東日本大震災』など。東北学院大学発行の『震災学』(vol.4・vol.10・vol.13・vol.17)にも寄稿している。

シリーズ「東日本大震災」【13】—海辺—のお二人目は、東北大学・占部城太郎先生。
震災後の海辺の生態系がどうなっているのか、多くの市民ボランティアと一緒にいった調査から見てきたことなどを
お聴きしました。学術的な成果とともに、市民にとって有用な体験が得られたようです。

市民と生態学者が共に調べた成果

震災前後の海辺の生物の比較調査へ

私は横浜の丘陵地に生まれ育ち、子どもの時は雑木林や湿地で虫や魚をとって遊んでいました。東京水産大学、現在の東京海洋大学に進んだのは「海に潜りたい。潜水部のある大学に行こう」という動機からです。ところが船酔いに弱かったことで海洋学は断念します。たまたまダム湖のプランクトンを調べていた先生に出会い、これが面白かったため、湖や沼、川などを対象とする「生態学」の研究者になりました。大学院を終えて千葉の博物館に勤めた時は、地域の昆虫などを採取して調べる業務だったため、親には「子どもの時と同じことをやって仕事になるのか」と言われました（笑）。

もちろん生物は環境とつながり合っているため、大きく生態系そのものも研究しています。東日本大震災が発生した2011年3月11日は、札幌で行われていた日本生態学会の大会中でした。札幌も大きく揺れ、照明器具などの落下に備えて全員で会場の外に出ると、テレビが宮城県被害を報じています。関西に出かけていた家族とはすぐに連絡がつき、研究室の学生も、その日のうちに無事が確認できて安心しました。

3日後によく交通機関が動きましたが、津波に襲われた仙台空港だけでなく、首都圏の空港も使えません。一度大阪まで飛んで、さらに東根市の山形空港に飛び、山形市からバスで仙台に戻りました。不眠不休で支援活動をしておられた医学部や工学部の先生もおられました、生物学系のわれわれには何もできません。用もなく、大きな被害を受けた沿岸地域を訪ねることがためられました。

4月になって、環境NPOの方から「現場を見てほしい」と連絡が入ります。まだ津波の跡が生々しい雄勝や石巻の沿岸をご案内いただいて、強い衝撃を受けました。そして「これは震災後の生態系がどうなるのか調査をするべきだ」と決意します。

満ち潮のときは海に、引き潮のときは陸になる干潟（ひがた）は、そこに暮らす生物の珍しさや種類の多さから、生物多様性

に富んでいます。震災前のデータもあったため、生態系の変化や回復を調べるには最適です。私たちは調査地を、仙台湾の干潟8カ所に絞りました。しかし、どれくらい長く調査したら生態系の変化や回復がわかるのでしょうか。海辺の生物には、1年で子孫を作る種もあれば、成熟に3年ほどかかる種もあります。そこで、3世代9年間調べたら津波の影響が分かるのではないかと考えました。研究者や学生だけでは、とても人手が足りません。研究室の同僚の先生が、震災前から市民や子どもと一緒に海辺の自然を調べる活動をなさっていたため、その経験を活かそうという話になりました。

生態学研究における大きな成果

まだ多くの方が避難所で生活していた状況です。我々だけでは、とても調査はできませんでした。ところが自然に親しんでもらうため、国内外で市民の方々に現地調査をしてもらおうという活動を1993年からしていた、東京に本部を置くNPOが協力を申し出てくださったのです。さらには、研究室のOBや県内の高校の先生等がスタッフとして加わり、資金面で支援してくださいる企業も見つかりました。こうして市民参加型のプログラムをスタートさせ、2011年から各エリアで毎年5回から6回の調査を行い、2019年までに延べ500名もの方々に、ボランティア調査員として参加していただくことができたのです。

津波で「壊滅した」としか表現しようのなかった干潟にも、実は2割から3割の種類の生物が生き残っていました。それに干潟もそこに暮らす生物たちも、数万年、数十万年の歴史の中では、何度も大津波に遭遇してきたはずですが、再び同じような生き物たちが見られるかは予想できませんでした。大津波後の沿岸生態系の変化を調べることは、生態学の課題としても重要だったのです。

生態学では大規模な環境の変化を「攪乱（かくらん）」と言います。生き物の種類によっては、これは決して悪いことではありません。生息域を広げたり、子孫を残すのに都合の良い環境になったりするからです。開発や動植物の持ち込みなど人間による攪乱は様々な問題を引き起こします。しかし、自然現象であれば、攪乱は単なる良し悪しで語ることはできません。

たとえば同じ仙台湾の干潟でも、生息している動植物の種類や数はそれぞれ違います。従って、同じ場所に干潟が形成されたとしても前と同じ種類の生き物たちが戻ること分かりません。もし戻るとすれば、その土地特有の生態系は偶然に形成される

のではなく、環境が決定的だと証明されます。さらに、震災の影響は、生態系を大きく変化させるものではなかったと結論付けることができます。そして結果は、まさにその通りでした。

市民が参加する調査は、楽しくなければいけません。年齢は中学生から高齢者まで幅広く、被災前の干潟で遊んだ思い出のある方も、勤め先の企業の社会貢献活動で派遣されて来た、東京のオフィスビルで働いている方もいます。調査経験のない「素人」であることは、大きな問題ではありません。大切なのは、すべての場所で、毎年、調査の質を同一にすることなのです。

海辺は楽しさと驚きに満ちている

調査ボランティアは、常に12人がひと組です。詳しい説明もなしに、「今から他の人と重ならないように散って、15分間で生き物だと思ったものは何でも袋に入れて戻ってきてください」とお願いします。すると一見何も無いように見えた海岸でも、様々な植物や虫や貝がいることに気づかれるのです。全員が取ってきた種もあれば、一人しか見つけられなかった生物もあります。希少な生物を見つけた人はうれしいし、他の人は悔しい（笑）。

次はスコップを配って「今度は土の中の生き物です。深さ30センチの穴を掘って、見つかったものを全て持ってきてください。穴は一人15個です」と言うと、「ここにいそうだ」と思う場所をみんな一斉に掘り始めます。そうして集めた生き物を図鑑などで調べ、名前が判明するたびに大いに盛り上がりました。最後には、今日の調査が沿岸生態系の変化や回復を解析する貴重なデータであることを説明し、感謝します。

2022年、私たちは調査の結果を公表しました。被災した干潟の生態系は、津波による攪乱から7～8年程度で回復する力のあることが分かったのです。論文は、海洋学の分野で国際的な評価を得ている学術誌に掲載されました。

2016年には、日本生態学会の東北地区会長だった私が編集代表を務め、それまでの知見を市民向けの『生態学が語る東日本大震災』という本にまとめました。また2023年には『仙台湾の砂浜生物ポケットブック』を作成し、無料配布しました。仙台湾の砂浜に生きる動植物をカラーで紹介し、見つける楽しみや見分ける喜びを味わってもらうための小冊子です。

仙台は都会でありながら、すぐ近くで海で散歩、釣り、海水浴、サーフィンなどができ、山に行けば気軽なハイキングから本格的な登山まで楽しめます。そうした幸運な場所に暮らして

懸賞

図書カードを
当てよう！

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 生態学で大規模な環境の変化を何という？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。平吹喜彦先生の記事もご覧ください。

応募方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部まで応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び【応募締切】2024年3月11日 当日消印有効
発送に限り利用させていただきます。

いるのだから、海岸や山の自然を楽しまないのはもったいないのではないのでしょうか。

震災後、海岸線には高い防潮堤が建設され、その内陸側には、山砂でかさ上げされた防災林エリアが造成されました。私はいずれも否定はしません。しかしもう少し時間をかけて検討したり、我々研究者の知見を取り入れたりはできなかったのかとは思いますが。たとえば砂浜を維持し、防災林を海側に、防潮堤をそれより内陸側に作ることで、貴重な生態系を守ることができるはずですが。法律や予算や時間の関係でできなかったというのであれば、今からでもそうした復旧・復興のあり方を検討し、準備して「次」に備えるべきでしょう。

私たちは東日本大震災で、自然の脅威をあらためて胸に刻みました。しかし海は、私たちに大きな恵みも与えてくれます。それは産業面や、経済的な価値だけで計ることはできません。たとえば海辺に生きる多彩な生き物たちは私たちをなごませ、楽しませ、そして驚かせてくれます。海や川は内陸部の自然とつながり合って、複雑でかけがえのない大きな生態系を構成しているのです。ぜひ実際に海辺へと出かけ、自然に触れて、知って、学んで、考えていただければと思います。

(取材＝2023年11月22日／東北大学青葉山キャンパス
生物学系研究棟3階 占部教授室にて)



東北大学大学院 生命科学研究所 教授
専門＝生態学・陸生物学

占部 城太郎先生

〈プロフィール〉(うらべ・じょうたろう) 東京水産大学水産学部卒業。同大学院 水産学研究所修士課程修了。東京都立大学大学院 理学研究科単位取得退学。理学博士(東京都立大学)。千葉県立中央博物館 学芸研究員、東京都立大学理学部助手、ミネソタ大学生態進化行動学教室 客員研究員、京都市大学生態学研究所センター助教授等を経て、2003年より現職。著書に『湖沼近過去調査法：より良い湖沼環境と保全目標設定のために』、共編著書に『生態学が語る東日本大震災』、共著書に『阿寒湖の大自然：最新研究が解き明かす「火山・森・湖」とアイヌ民族の物語』、訳書にワーウィック・ウィンセント『湖の科学』、プロンマーク&ラスアンダース『湖と池の生物学』など。東北大学大学院の『震災学 vol.4』にも寄稿している。



QRコード
詳細情報も
Web版はより多くの情報を
随時更新しています。
「まなびのめ」
検索
http://manabinome.com/event

2 FEB
まちなか美術講座 2023
「夢みたパリー宮城県美術館コレクション
の中のフランス近代美術」
2月 3日(土)
13:30▶15:00
無料 申込不要
講師 赤間和美氏 (宮城県美術館研究員)
場所 東北工業大学一番町ロビー 2階ホール (定員 50名 (先着))
主催者 宮城県美術館・東北工業大学 (問合せ) TEL 022-723-0538

れきはく講座 第3回
「古代都市のようすと人々のくらし
—山王・市川橋遺跡から—」
2月 3日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込
講師 鈴木啓司氏 (東北歴史博物館学芸部)
場所 東北歴史博物館 3階講堂 (定員 280名)
主催者 東北歴史博物館 (問合せ) TEL 022-368-0106

3.11 学びなおし塾
「東日本大震災の被災地での防災教育」
2月 4日(日)
13:30▶14:30
無料 申込不要
講師 佐藤健氏 (東北大学災害科学国際研究所教授)
場所 みやぎ東日本大震災津波伝承館
主催者 宮城県復興・危機管理部復興文庫・伝承課、東北大学災害科学国際研究所 (問合せ) TEL 022-752-2140

禅をきく会 第189回
「楽しい集い—仏典の教える幸せのかたち—」
2月 6日(火)
14:30▶16:30
有料 申込不要
講師 千葉公慈氏 (学校法人梅檀学園 東北福祉大学学長)
場所 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス
主催者 曹洞宗東北管区教化センター (問合せ) TEL 022-218-1381

市民公開講座 No.584
「安全運転と感情コントロール」
(オンライン)
2月 9日(金)
18:00▶19:15
無料 要申込
講師 小川和久氏 (東北工業大学総合教育センター教授)
場所 Zoom によるオンライン開催
主催者 東北工業大学 地域連携センター (問合せ) TEL 022-305-3810

仙台大学川平キャンパス 公開講座
「スポーツニュースを「食う」 うまいか
まずいか!？」
2月10日(土)
9:00▶10:30
無料 要申込
講師 日下三男氏 (仙台大学教授)
場所 仙台大学川平キャンパス (定員 30名)
主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 (問合せ) kikou@sendai-u.ac.jp

講座仙台学 2024
「仙台 理化学研究所・30年の研究とテラ
ヘルツ光」
2月10日(土)
10:30▶12:00
無料 要申込
講師 南出泰亜氏 (理化学研究所チームリーダー)
場所 東北大学片平門台館・社会連携スペース エスパス (定員 50名)
主催者 学都仙台コンソーシアム・理化学研究所 (問合せ) TEL 022-228-2111

仙台大学川平キャンパス 公開講座
「身体のゆがみを改善しよう (スタティッ
ク&ダイナミックストレッチング)」
2月10日(土)
10:40▶12:10
無料 要申込
講師 高橋陽介氏 (仙台大学准教授)
場所 仙台大学川平キャンパス (定員 30名)
主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 (問合せ) kikou@sendai-u.ac.jp

後期基礎講座：吉野作造の文章を読んで
みよう：第5回「戦後の日露関係、日中
関係をどのようにみたのか」
2月10日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込
講師 氏家仁氏 (吉野作造記念館館長)
場所 吉野作造記念館 (定員 30名)
主催者 吉野作造記念館 (問合せ) TEL 0229-23-7100

講座仙台学 2024 「カーボンニュートラ
ルと再生可能エネルギー in 仙台」
(ハイブリッド)
2月10日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込
講師 村松淳司氏 (東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター教授)
場所 東北大学片平門台館・社会連携スペース エスパス (定員 50名 (オンライン100名))
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北大学 (問合せ) TEL 022-217-5204

参加体験記
「学び」イベント参加体験記
2023 年度史料講読講座<「道中記」にみる江戸時代の旅>
講師 秋山沙織氏 (東北歴史博物館)
開催日: 2023年8月6日(日)、9月3日(日)、10月1日(日)の計3回
場所: 東北歴史博物館 1階研修室
主催: 東北歴史博物館

コロナ規制が緩和され、旅行を楽しむ人が増えています。訪日客も増加し観光地は賑わいを取り戻しているようです。本講座は江戸時代の旅の記録、道中記を史料としてお伊勢参りの旅を読み解くものです。講師は秋山沙織氏です。テキストは秋保町史資料編に収録されている「伊勢道中記」の解説文なので、くずし字を読み取る苦勞はありません。

この道中記は日秋保町(現在は仙台市)内の4村から21名が参加した団体旅行の旅日記です。旅の期間は嘉永6年5月24日～8月9日の74日間に及んでいます。嘉永6年は西暦1853年、ペリー来航の年でもあり、江戸時代末期の激動の頃になります。目的は「お伊勢参り」なのですが、その道中に、筑波山、千葉の成田山、江戸見物、鎌倉、富士山登山、名古屋、伊勢、奈良、高野山、大阪、船で行く四国の金毘羅参り、京都見物、長野の善光寺、日光等にも寄る大旅行です。伊勢神宮のみならず各地の著名な観光地を巡っています。

江戸時代の旅は歩くことが基本ですが、道中記には、日々の経路の順に、地名、歩行距離、宿泊地とその宿銭、訪れた神社仏閣、城下町、観光地の状況等について記録されています。テキストはA4判上下2段縦書き文で13ページあります。講師はテキストとともに、スライドで当時の観光地などが描かれた浮世絵を示し、近世の交通路図面を配布して旅のルートを追いながら説明してくれましたのでわかりやすい解説となりました。当時の旅は異なる異文化に触れて交流を積極的に行い、見聞を広めるものだったようです。

本講座の最終回10月の講義日と前後して東北新幹線を利用する機会があったのですが、手にした車内広報誌には特集「黄門さまのロングトレイル」と題する水戸光圀の領内漫遊の話が掲載されていました。江戸時代の旅、特に旅人の歩き方、歩く距離などについて谷釜尋徳氏(東洋大教授)の解説記事もありました。江戸時代の中期から後期、史上空前ともいえる旅ブームが起きました。当時から旅行マップやガイドブックの類いが多種大量に出版され、多くの人が街道を行き交ったということです。

仙台から四国の金毘羅までの往復距離は現在の鉄道でみると約2,320km(=1,160×2)にもなります。谷釜氏によれば当時の東北地方の庶民の旅の総歩行距離は2,000km以上、1日平均の歩行距離は約34km、1日当たり20～40km、多い日では60～70kmにもなるそうです。本講座の伊勢道中記も谷釜氏の著書に事例として収録されており、一覧表の欄に総距離2,423km、日平均37.9km、日最長56.5kmと記載されています。東北地方の旅の中では早歩きの旅でしたが、富士山登山や四国金毘羅様へも訪れるなど充実した旅だったようです。江戸後期の旅ブームの背景には、全国に街道が整備され、荷物運搬業の発達や貨幣経済制度の普及などがあったと指摘しています。

10月11日のNHKのTV番組「歴史探偵」では、江戸の旅ブーム、特にお伊勢参りがテーマになっており、谷釜教授が出演し、解説されていました。その後、谷釜氏の著書を2冊ほど読み、理解を深めたところですが、本講座には題名に興味を持ち、参加してみたのですが、タイムリーな話題だったようです。江戸時代の庶民の旅についてその一端を知ることが出来ました。

(仙台市 島田昭一)

読者の声
Voice Park
読者と編集部
のキャッチボール
第62号 人権を考える

「女性と人権」や「国籍」のことは日頃から意識したり、考えたことがなかったので、反省する一方、とても興味深く読ませていただきました。何事も学ぶことは大切ですね。(角田市・64歳)
編:現在、社会問題になっている痛ましい出来事の多くは人権を尊重しなかったことによって起きていていると感じます。まずは関心を持つことから始めたいですね。

国籍について考えた事も疑問に思った事もなかったので今号の記事には考えさせられました。人権や国籍とは...難しいですね。(柴田郡柴田町・56歳)

編:たしかに普段当たり前すぎて気にしていないのが国籍や人権かもしれませんが。長年にわたる認識の発展や法律の確立によって今がある、と考えると、おろそかにはできません。

天童睦子先生の記事を読み、東日本大震災のときに避難場所で避難者・ボランティアの女性が性被害を受けたニュースを思い出し、災害女性学の必要性を痛感しました。(仙台市宮城野区・42歳)
編:災害時には、避難所や混乱した状況で性的な被害を含む暴力やプライバシーの喪失などの問題が、少なからずありました。女性も含めた人たちが、震災やその後の復興期においてより早く安心して生活できる環境を築けるよう、意識改革が必要だと考えます。

人は血や出身地など、それがそうじゃないかといった分けることが好きで争いが起きているんだなと感じた。(仙台市青葉区・20歳)
編:人は違いを強調することがあり、その違いが争いを引き起こすことがあります。違いを尊重し、対話や教育を通じて理解を深め共通の価値観や人権を尊重する社会が築かれることが望まれます。「違う」ということに対して攻撃的にならない、そんな人間になりたいですね。

「学びの庭におじゃまします／国民であることとは」の「～主義」の後ろにある「羅」とは?と疑問に思う人も多いのではないかと思います。ラテン語の意味かと推測しましたが、若い人達にわかるのかな、とも思います。(仙台市太白区・58歳)
編:[羅]はラテン語の意味、ご明察です。「わかりやすい」記事が心がけていますが、時には「読んで終わり」じゃなく、疑問に思っ調べてるなど「学びを深める」ことにつなげていただければと思います。

体調が、思わしくなく遅れました。今後もよろしく。(仙台市泉区・81歳)
編:その後ご体調いかがでしょうか? あんなに暑かった夏が終わり、10月入ると急に晩秋の気配となりました。心身ともにについてくのが大変ですが、どうぞ今後ともお体に氣を付けてご愛読いただければ幸いです。

2歳児の育児中。育児がテーマのイベントを増やしてほしいです。出来れば託児付き!(名取市・40歳)
編:私も育児中ですが、イベント参加はなかなか難しいところがありますね(笑)。育児がテーマのものや参考になりそうなイベントもご紹介出来たら良いなあと思います。

その他すべてのお便りと編集部コメントはWeb版でご覧いただけます。

「まなびのめ」配色法: 数色目(かさねのいろめ)
第63号・冬/「枯色」(kare-iro)

これからの主な「学び」イベント
詳細はWeb版に掲載しています。http://manabinome.com/event
新型コロナウイルス等の感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

2 FEB
仙台大学川平キャンパス 公開講座
「嚙下体操をやってみよう(物が飲み込み
にくくありませんか?)」
2月17日(土)
9:00▶10:30
無料 要申込
講師 後藤満枝氏 (仙台大学准教授)
場所 仙台大学川平キャンパス (定員 30名)
主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 (問合せ) kikou@sendai-u.ac.jp

仙台大学川平キャンパス 公開講座
「柔術狂時代」
2月17日(土)
10:40▶12:10
無料 要申込
講師 藪耕太郎氏 (仙台大学准教授)
場所 仙台大学川平キャンパス (定員 30名)
主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 (問合せ) kikou@sendai-u.ac.jp

れきはく講座 第4回
「国防の第一線、『満洲』へ渡った子ども
たち」
2月17日(土)
13:30▶15:00
無料 要申込
講師 渡邊直樹氏 (東北歴史博物館学芸部)
場所 東北歴史博物館 3階講堂 (定員 280名)
主催者 東北歴史博物館 (問合せ) TEL 022-368-0106

特別展「なつかし仙台5～いつか見た街・
人・暮らし～」関連講座
「映像と音で楽しむ思い出の仙台」
2月18日(日)
13:30▶15:00
有料 要申込
場所 仙台市歴史民俗資料館 (問合せ) TEL 022-295-3956
主催者 仙台市歴史民俗資料館

佐伯一麦 北根ダイアログ 2024
「仙台の文学 むかし・いま・これから」
2月18日(日)
13:30▶15:00
有料 要申込
※1/30(火) 必需
講師 佐伯一麦氏 (小説家、仙台文学館館長) 熊谷達也氏 (直木賞作家) 池上冬樹氏 (文芸評論家)
場所 仙台文学館講習室 (定員 80名)
主催者 仙台文学館 (問合せ) TEL 022-271-3020

民俗講座 第2回
「15歳の水祝儀—切込の裸カセドリ—」
2月23日(金・祝)
13:30▶15:00
無料 要申込
講師 今井雅之氏 (東北歴史博物館企画部)
場所 東北歴史博物館 1階研修室 (定員 40名)
主催者 東北歴史博物館 (問合せ) TEL 022-368-0106

仙台大学川平キャンパス 公開講座
「命を守る方法とは?—一次救命処置」
2月24日(土)
9:00▶10:30
無料 要申込
講師 福田伸雄氏 (仙台大学講師)
場所 仙台大学川平キャンパス (定員 30名)
主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 (問合せ) kikou@sendai-u.ac.jp

仙台大学川平キャンパス 公開講座「認知症世
界の歩き方～当事者の視点で認知症の世界を
冒険しよう～(認知症サポーター養成講座)」
2月24日(土)
10:40▶12:10
無料 要申込
講師 篠原真弓氏 (仙台大学教授)
場所 仙台大学川平キャンパス (定員 30名)
主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 (問合せ) kikou@sendai-u.ac.jp

仙台大学川平キャンパス 公開講座「ワー
ルドカフェで語り合おう!「仙台×スポー
ツでまちづくり」
2月24日(土)
10:40▶12:10
無料 要申込
講師 弓田恵里香氏 (仙台大学准教授)
場所 仙台大学川平キャンパス (定員 30名)
主催者 仙台大学研究支援部 スポーツ健康科学研究実践機構事務課 (問合せ) kikou@sendai-u.ac.jp

せんだい文学塾 2月講座
2月24日(土)
16:00▶18:00
有料 要申込
講師 佐藤厚志氏 (芥川賞作家)
場所 仙台文学館 (問合せ) sendaibungakujuku@gmail.com
主催者 せんだい文学塾